

呑気症に対する鍼施術の可能性に関する考察
Considerations on the Potential of Acupuncture Treatment for Aerophagia

弓削周平*¹

*¹木もれび鍼灸院

Shuhei Yuge*¹

*¹Komorebi Acupuncture Center

【 緒言 】

呑気症は機能性消化管障害の一つとして認識されている。この病態は過剰な空気を消化管内に飲み込むことで特徴づけられ、胃腸内に大量のガスが貯留することにより、ゲップや腹部膨満感、ガスなどの症状を引き起こす。

呑気症は過敏性腸症候群や機能性ディスペプシアと関連することが知られているが、その病態生理については不明な点が多く、効果的な治療法の確立には至っていない。

近年、横隔膜の機能と呑気症との関連が注目されている。横隔膜、特に横隔膜脚は食道裂孔を形成し、食道の通過を制御する重要な役割を果たしている。この横隔膜脚は周囲方向に配向した筋線維を持ち、食道の下端に括約筋様の機能を提供している。

今回は呑気症に対する新たな治療アプローチとして、横隔膜に関連する経穴である胃兪穴への鍼施術を行った 15 例について報告する。

【 方法 】

2024 年 1 月から 3 月、腹部膨満感、過剰なゲップもしくはガスを訴える 15 名に鍼施術を行った。

呑気症の判断基準は、腹部膨満感、過剰なゲップもしくはガス、いずれかの症状を呈し、医療機関にて器質的疾患が除外診断されているものを対象としている。なお、施術の間隔は週 1 回とし、最大 6 回までおこなった。

使用した鍼はシリコン塗布していない(0.35×90mm、前田豊吉商店社製)を用いた。胃兪穴に対して横刺で上方に 40-50mm 刺入した。刺入後、鍼尖の硬結が弛緩するまで(約 1 分)置鍼した。施術効果の評価は、最終施術から 1 ヶ月後のアンケートにより、ゲップ・ガス・腹部膨満感の有無を評価した。

【 結果 】

対象は 15 名、男性 5 名・女性 10 名、平均年齢 35.9±13.5 歳。

15 名中 11 名 (73.3%) でゲップ、腹部膨満感、ガスについて消失が確認された。

【 考察 】

呑気症に対する胃脘穴への横刺による鍼施術は、呑気症患者の症状改善に有効である可能性が示唆された。

胃脘穴は横隔膜の近傍に位置し、この部位への鍼施術が横隔膜の機能に影響を与える可能性がある。横隔膜、特に横隔膜脚は食道裂孔を形成し、食道の通過を制御する重要な役割を果たしている。この鍼施術が横隔膜の緊張度や機能に何らかの影響を与え、結果として呑気症の症状改善につながった可能性が考えられる。

改善の要因には患者の BMI 25 未満（12 名中 11 名）の関与も考えられた。腹部膨満感は過敏性腸症候群や機能性ディスぺプシアに共通愁訴で、今後、これらにも活用できる可能性がある。なお気胸および内出血への配慮のため刺鍼の深度と方向に十分に注意し施術した。

キーワード：呑気症、胃脘、機能性消化管障害、腹部膨満感、横刺